

邪馬台国は何処に

魏志倭人伝の真実

新井 齊

青山ライフ出版

目 次

1. まえがき
 2. 魏志倭人伝の嘘
 3. 邪馬台国までの道程
 4. 陳寿の仕掛け
 5. 邪馬台国の場所
 6. 使訳通ずる所三十国
 7. 大和王朝の真実
- 参考文献

1.まえがき

皆さんは魏志倭人伝を読んだことがおありだろうか。

歴史上初めて倭（日本）の具体的な記述が登場するのだ。倭には邪馬台国があり、卑弥呼という女王が治めていたと。卑弥呼の使者が船で中国に渡り、皇帝に会いに行ったと。そして、邪馬台国から帯方郡（現在のソウル付近）までの道程が記されている。三世紀中国の長大な歴史書（正史）のほんの一節なのだが。

では、邪馬台国は一体どこにあったのか？

これが現在でもわからない。本書はその日本古代史最大の謎を解明しようとするものである。

魏志倭人伝には帯方郡から邪馬台国へ行く方角と距離が書いてあるのに、何故今日までその場所が分からないのか。

それはその記述が嘘つまり虚偽だからである。そしてこの虚偽の為に記述には多くの矛盾があり、合理的に解釈することが出来ない。この事は殆ど全ての古代史愛好家が知っており、邪馬台国論争とは結局のところこの嘘を解明することなのである。

2. 魏志倭人伝の嘘

嘘には嘘をつく理由があり、露見して困る場合にはその嘘を隠す仕掛けがある。通常は嘘をつく人と、仕掛けをする人は同一人、つまり嘘をつく本人である。ところが倭人伝の場合はこれが別人なのである。嘘をついたのは魏王朝（220年～265年）の重臣司馬懿^{しほい}であり、嘘を隠したのは倭人伝を書いた西晋王朝（265～316）の役人陳寿である。現在までに於ける殆ど全ての邪馬台国論はこの事実を見落としている。この様に前提の間違った議論をいくらしても無駄である。司馬懿は魏王朝の重臣であるから、当然ながら嘘をつく理由は政治的であり、当時の中国の政治事情を知らなければその目的は分らない。

しかしながらこれは容易なことではなく、専門家に頼らざるを得ないが、肝心なことはどの専門家の説を採用するかである。多数の学者の説の中で最も正しいと思われるのは、東京外国語大学の岡田英弘名誉教授の説である。

同博士は著書「倭国」の中で司馬懿が嘘をついた理由、陳寿が嘘を隠した事情について陳べているが、残念なことにもその仕掛けの中身については言及していない。

嘘とは何か。

倭人伝には帯方郡（現在のソウル付近）から邪馬台国までの方角と距離が東南へ一万二千里、水行十日、陸行一月